雨にも映える太鼓まつり

雨の中、高良神社前の参道を練り歩く太鼓まつりの「宮入り」

八幡に夏の到来を告げる「太鼓まつり」が、7月17、18日に行われました。太鼓の響きに合わせ、担ぎ手たちが「ヨッサー、ヨッサー」と掛け声をあげ、町内を巡行。夜には高良神社で「宮入り」が営まれました。

太鼓まつりは、石清水八幡宮の摂社・高良神社の例祭。今から約180年前（文政年間）、大きな屋形太鼓が町内ごとに作られ、勇壮な太鼓まつりへと発展したと言われています。

7基勇壮に「宮入り」

祭りのクライマックスは18日の「宮入り」。神社前に各地区の屋形太鼓4基と子ども屋形太鼓3基の計7基が集結しました。

降り続く雨の中、各区の担ぎ手たちが威勢の良さを競うように、屋形太鼓を左右に揺さぶり、提灯の明かりなどで照らされた神社前の参道を往復。熱気あふれる担ぎ手たちの姿に詰めかけた見物客からは、大きな拍手と歓声が起こりました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

誰でも楽しめる「マグダーツ」

集中力を鍛える効果も

高齢者が室内で安全・手軽に楽しめるスポーツとして、市老人クラブ連合会はニュースポーツの「マグダーツ」の大会を7月12日、市文化センターで開きました。

マグダーツは矢の先に針に代わり、磁石が付いているのが特徴で、投げた矢を的に張り付けて点数を競うスポーツです。また、的を狙うことで集中力を鍛える効果も期待できるとのことです。

同連合会は、マグダーツの用具を3年前に購入し、64あるクラブに配布。会員はそれぞれのクラブで練習を重ね、大会に挑みました。

今年で2回目となる大会に会員130人が参加。1ゲームで6本の矢を的に投げ、2ゲームの合計点を競いました。矢が高得点の場所に付くたびに会場から歓声が起こりました。

初めて参加した柏原喜美さん(92)は「とても楽しかったです。元気に過ごし、また来年も参加したいです」とにこやかに話しました。

高得点を目指し、集中して矢を的に投げる参加者

体にお絵かき楽しいね

絵の具まみれで大はしゃぎ

八幡第二幼稚園の3～5歳児の63人が7月11日、体に絵の具を塗って遊ぶ「ボディーペインティング」を体験しました＝写真＝。

自宅ではなかなか出来ない遊びを思い切り体験してもらおうと、夏の時期に開催しています。

パンツ1枚で園庭に飛び出した子どもたちは、赤、白、青などの「ゆびえのぐ」6色から自由に手に取り遊びました。最初は恐る恐る塗っていた子どもたちも、慣れてくると次第に大胆に。自分の髪の毛のほか、友達や先生と付けあうなど、体中を絵の具まみれにして楽しみました。

絵の具を落とした後は、みんな大好き水遊びです。園庭に用意したプールで大はしゃぎする子どもたちの楽しそうな歓声が響きました。

京都八幡高校3年森垣心君 来春八角部屋入り　夢はでっかく「横綱に」

来春の高校卒業後に角界入りを決めた京都八幡高校3年生でレスリング部員の森垣心君(18)が7月4日、同校で記者会見し、今後の飛躍を誓いました。

森垣君は身長176㎝、体重127㎏。昨年出場した国体のグレコローマンスタイル120㎏級で5位入賞するなど、全国で活躍しています。

昨春に出場した全国高校選抜レスリング大会で、会場を訪れた八角部屋の関係者が、森垣君のキレのある投げ技や素直な人柄に引かれ、入門を呼びかけました。

大学でレスリングを続けたい気持ちもありましたが、母親のさゆりさんやレスリング部顧問の浅井努監督からの後押しもあり「自分の体を生かせるのは相撲しかない」と、今年5月に同部屋入りを決めました。

記者発表に同席した八角親方（元横綱・北勝海）は「入ってからどれだけ努力できるかが大事。ぜひ関取を目指してほしい」と期待を寄せています。森垣君は「親方のような横綱を目指して、稽古に励みたい」とはっきりとした口調で話しました。

八角親方と握手する森垣心君㊨